

米アカデミー賞 国際長編映画賞 スペイン代表
 バムスプリングス 国際映画祭 国際脚本賞
 サン・セバスティアン 国際映画祭 ルーラグリーンピース賞
 ガウディ賞 作品賞監督賞脚本賞 プロダクション賞
 英ガーディアン紙 年間ベスト映画賞
 シドニー国際映画祭 作品賞ノミネート
 ソフィア国際映画祭 作品賞ノミネート

観る者を
 驚嘆みにして離さない。
 Hollywood Reporter

傑作。

ペドロ・アルモドバル

深い余韻と感動をもたらす、
 家族の豊潤な物語。
 Variety

スペインのカタルーニャで、桃農園を営む大家族に突き付けられた、土地の再開発。
 急激な時代の変化に晒される家族の絆を通して、世界の未来を問いかける。



少女の特別な夏を描いた初の長編監督作『悲しみに、こんにちは』がベルリン国際映画祭で最優秀新人作品賞とジェネレーション部門グランプリを受賞したカルラ・シモン。眩いばかりの新しい才能の登場に映画界は歓喜した。長編2作目となる『太陽と桃の歌』は、伝統的な家族経営の桃農園が、ソーラーパネルに取って代わられるという世界中で起こっている自然と人間の問題を描き、ベルリン国際映画祭に凱旋するや見事金熊賞に輝いた。世界各地で56の映画祭やアワードに受賞&ノミネートされた必見作が、遂に日本で公開となる。

リアルな家族のやり取りに、
 時に笑わされ、時に目頭が熱くなる

カタルーニャで、三世代に渡る大家族で桃農園を営むソレ家。例年通り収穫を迎えようとした時、地主から夏の終わりに土地を明け渡すよう迫られる。桃の木を伐採して、代わりにソーラーパネルを敷き詰めるというのた。父親は激怒するが、妻と妹夫婦はパネルの管理をすれば「楽に稼げる」という囁きに心を動かされていく。賭け事に懸ける祖父、取り付く島のない父、畑の片隅で大麻栽培を始める長男など、てんでバラバラに桃園の危機を何とかしようとするが、大げんかが勃発。一家に大きな亀裂が入ったまま最後の収穫が始まろうとしていた…。



太陽と桃の歌

脚本・監督：カルラ・シモン『悲しみに、こんにちは』

出演：ジョゼ・アバド、ジョルディ・ブジョル、ドルセ、アンナ・オティン

2022年/スペイン・イタリア /カタルーニャ語/カラー/ヴィスタ/5.1ch/121分/原題：ALCARRAS/日本語字幕：草刈かおり

配給：東京テアトル © 2022 AVALON PC / ELASTICA FILMS / VILAUT FILMS / KINO PRODUCTIONS / ALCARRAS FILM AI

taiyou-momo.com

米子シネマクラブ 第165回例会

とき：2026年2月15日（日） ①午後2時～ ②午後7時～ （上映時間 100分）

ところ：米子コンベンションセンター 月会費 大人1000円 中高生500円 入会金500円
 （小ホール） （新入会の方は入会金と会費2か月分が必要。当日入会可）

お問い合わせ：米子シネマクラブ 090-8248-9810